

歩 & 足 目 & 足 デス & ラテス

Vol.92

非戦論者安藤正楽の故郷、
旧土居町界隈を歩く
(四国中央市)

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・
近代化遺産活用アドバイザー

【安藤正楽のこと】

果たして県内で安藤正楽の名を知っている人がどのくらいの割合でいるんだろう。出来ることなら、少なくとも「ああ、アノ人。」と半分くらいの方には知っておいてほしい人物の一人。その彼の故郷が現在の四国中央市土居町藤原。

慶応二（1866）年つまりは翌々年には新時代明治がやって来る、そんな江戸も最後の頃合いに彼は生まれ、幼少期は岸蔵と言った。やがて20歳となって正楽と改名、23歳の時（明治22年）に上京し明治法律学校（後の明治大学）に入る。様々な有為の人物との邂逅を経て27

歳で帰郷、今に残る小金井水道（灌漑用水）を完成させる。33歳で宇摩郡議會議員、37歳（同36年）で県議會議員に当選する。

順風満帆に見えたが41歳（同40年）の時事件が起きる。正楽が後に非戦論者と形容される由縁ともなった出来事である。近くの藤原八坂神社に日露戦役記念碑が建立され、その撰文を乞われて彼が書いた。

文中には「忠君愛国の四字を滅すと書かれていた。それが後



碑文が削られた日露戦役記念碑（八坂神社）



原文の説明（副碑）が横に建つ

に官憲の知るところとなり、碑文は全て削られた。富国強兵・殖産興業をスローガンに走った明治という時代、日露戦争に勝利した社会背景にあつて、「忠君愛国」の四文字は重かった。その筆禍は、県議現役時の出来事でもあり、それが原因となったかその年の9月、彼は県議を退く。

その削られた記念碑は今も神社境内に残されているが、当然碑文内容は削られていて読めない。しかし、碑の側には説明看板があり全文を読むことが出来る。それは正楽の甥山上次郎によって調査研究されたことが大きい。記念碑建立の際の拓本が残っており、復元可能となった。前後の文面を読み、正楽の真意を探ってみよう。「当時170戸の村から39名が出征し、うち8名が負傷、2名が戦死している。村から多くの人が出て行った、当時を回想し戦慄する。戦争の非は世界の公論であるのに、事実ほ之に反して明日また戦は始まるかも知れない、世界人類のために忠君愛国の四字を無くしてはどうかと私は思う。この碑に銘記された人々ほどのような想いで帰ったのだろう。」と彼の心からの慨嘆の言葉が並ぶ。今でこそ反戦平和というのは